

やまぶきは

埼玉北西部の和算研究の個人通信
(題字 伊藤武夫氏)

熊谷の和算家の事績を訪ねて(一)

昨年(平成二五年)十月末の好天の一日、野口泰助先生にご案内していただき、熊谷の和算家三名(伊藤慎平・明野栄章・黒沢重栄)のお墓や石碑を訪ねました。当日は車で野口先生のお宅に伺い、先生に同乗して頂き案内していただきました。

伊藤慎平(一八〇九〜九五)は忍藩士で、**桑名七代藩主松平忠莖**(ただたか)が文政六年に忍藩に移封になった際に忍に来ています。五代藩主**忠和**(ただとも)が至誠賛化流を学んでいることから、忍藩の数学は伝統的に至誠賛化流ですが、慎平は平井尚久に学び、苦学力行して算術を修め、算術師範を勤め藩より厚く用いられたといわれます。

慎平の問題は福田理軒の「近世名家算題集」に二問あり、また『算籍便覧』(「やまぶき」創刊号で紹介)を田中算翁とともに著してい

第2号 平成二六年(二〇一四)二月二四日

発行部数 十五部 (不定期刊行)

発行者 東京都羽村市

山口 正義

ます。隠退後は熊谷市の肥塚に住みました。墓は熊谷市肥塚の成就院(少し離れた墓地)にありました。正面には「慎證院釋家興平等居士」とあり、右側面に次の碑文があります。(末尾の文献を参考にさせて頂きました)

君諱慎平幼名稱六之助元桑名藩士伊藤時敏之四男文化六年歳一

在己巳八月生于伊勢國桑名城内君年五歳喪其父文政六年藩主一

移于武蔵國忍城與長兄等俱從之當時家計粟糶無充学資者君艱一

難立志有少暇則脩学專研究算術徒步往来于江戸就其師天保三二

年分家獨立以算術師範為勘定方試補藩主肇賜禄米累進至勘定一

組頭明治維新藩政釐革擢任權大属又補埼玉縣十二等出仕明年一

辞職而後退隱明治二十八年二月二十四日年八十有七而歿焉君夙一

勤儉貯蓄新築邸宅以創家門之基礎其功績可

謂偉且大也刻以
垂不朽 明治二十九年二月二十四日
孫伊藤光造建之

友人華石渡辺雄書



伊藤慎平の墓

次に熊谷市小島の**明野栄章**(一八三五〜一九〇四)の石碑を見たく明野家を訪ねました。先生が訪ねたのは昔のことで、状況が大分変わっていたようですが明野家を探すことができました。

栄章は十五歳で代島久兵衛に数学を学び、その後群馬の劍持章行について学び、明治三年劍持より見題・隱題・伏題の三巻の免状を受け、関流八伝となっています。

石碑は「寿蔵碑」と言われるもので明治三十年に門弟たちによって建てられました。その時、栄章は六十三歳でした。碑文は明確に読め、「天資温厚幼より数学を好む」とあります。次のようなものですが、裏面には百十四

名の門人等の名があります。

明野氏寿蔵碑

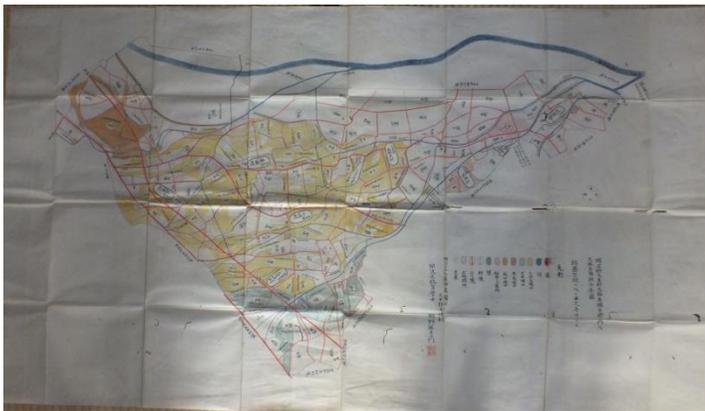
君諱栄章称延右衛門以天保六年生武州大里郡大麻生
 村天資温厚幼好数学年甫十五入於同郡大幡村関派七
 伝代島久兵衛之門居者十余年孜々如一日及文久三年
 師易寶就上毛吾妻郡同派劍持要七研究廿余年學術大
 進遂窮其蘊奧至明治三年得八伝之伝其刻苦勦励可想
 矣曾対門生某質義就乎日月躔度之如何著一冊子講述
 明晰大啓発諸生之蒙於是乎名声流四方請本書者門前
 接踵其他製於郡内田圃山林道路溝洫等之製図伝鴻益
 於後世者不為鮮允不易得士也執贖者前後二百有余人
 矣配本村田中氏举男四女二長子甚太郎嗣焉今年六十
 三於世无妄頃者門弟子相謀釀金以立一小碑欲報其徳
 恩盖在換封樹之宮於溘焉之日而明野氏亦所望也乃応
 乞誌其顛末云明治三十年四月五日

正六位勳四等志村徳行撰並書及篆額印



明野氏寿蔵碑

石碑を見学させて頂いた後、運良く現当主の方に劍持から受けた免状や、栄章が作製した小島地区の地図を見せて頂くことができました。免状は見題・隠題・伏題の三巻で、日付は三巻とも「明治三年五月九日」となっていました。地図は二つあり、一つは長さ二間に余る大きな小島地区の地図であり、それには「埼玉縣武蔵國大里郡小嶋村全図」として田畑宅地等一筆毎に地番、面積等が記入され、「于時、明治十七甲申秋製之 関流宗統八傳明野延右工門栄章」と記されています。もう一つは半間強の大きさで「埼玉縣大里郡大麻生聯合部内及大麻生堰組合全図 縮尺百間ヲ以テ曲尺壹寸トス」とあり、「明治十八乙酉初夏製之 大里郡小嶋村 関流宗統算学士 明野延右工門」とありました。



大麻生堰組合全図



免状三巻

最後に黒沢重栄（一八〇九〜一八八八）の墓（熊谷市久下の医王寺）を案内して頂きました。

重栄は忍藩に勤め市川行英に師事しています。天保七年行英の著した「合類算法」は黒沢重栄ともう一人の訂となつていきます。天保八年久下の東竹院の堤防決壊のとき、地図を作製し大いに活躍したといわれています。

墓は大きな石碑で、正面には「先祖」と上段に横書し、その下に「徳翁良寿居士」「大圓妙鏡大姉」とあります。

裏に碑文があり、撮影したもので読みました（読めない箇所は末尾の文献を参考にさせていただきました）。

翁諱重榮俗称良八大里郡久下村産也本性黒澤父曰長左衛門金祐翁其二男也以文化六年四月生配古世比企郡古里村安藤祭人之女翁為人篤實至孝励精刻苦助乃父之業最有功焉乃父賞其志與田宅為支家實天保九戊戌年也爾来奮理家事遂克成創業之蹟以答乃父之恩賜亦可謂勉矣翁天性温雅而長于数学関氏孝和七世之再傳受業於市川某氏己而通于點竄圓理起源術後著合類算法是以乞業者多矣明治廿一年一月十二日病卒享壽七十有七法諡曰徳翁良壽居士葬於東竹院先塋之側嗣子黒沢荒次郎記翁生前之事蹟而垂不朽云爾
明治廿二年一月十二日建焉



黒沢重栄の墓

この見字には野口先生の奥様にお弁当まで用意して頂き恐縮の限りでありました。改めてお礼申し上げます。

参考文献

「北武の算家落穂拾い」野口泰助『埼玉史談』12巻1号）

~~~~~

【野口文庫の紹介】

『算法開蘊附録解』

『算法開蘊附録解』は剣持章行（一七九〇〜一八七二）自筆の稿本です。五十九丁。剣持の『算法開蘊』（嘉永二年（一八四九）刊行）の附録には十五名の算者により計二十問掲載されていますが、本書はその二十問の解法が具体的に書かれています。十五名の出題者は

下総八名、武州三名、上総二名、常陸・上州各一名です。武州の三名は熊谷の戸根木格齋（二問で一番と十八番）、嵐山町越畑の船戸悟兵衛（二問で五番）、本庄市宮戸の金井稠共（二問で八番）です。

奥付に「右之條々依懇望写與置也決而致他見間敷候 嘉永二 西歳十月 剣持要七 原半五郎殿」とあり、原半五郎からの要望により著したようです。原半五郎は千葉県銚子の人です。

算法開蘊の附録の問題は、変形した台形や楕円体の重心を求めなければならない問題や、弧背上を回転する軌跡の問題などがあり結構難問である。私にとって戸根木のエピソード（外サイクロイドの問題は未解決（問題が間違っている？））

であり、い

ずれ機会を

みて、この

『算法開蘊

附録解』の

解法を調べ

てみ

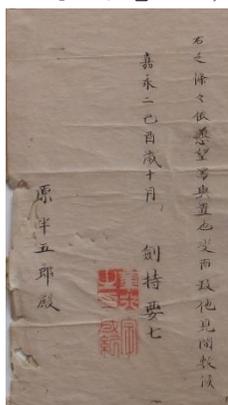
たい

と思

って

いま

す。



『算法開蘊附録解』



なお、『算法開蘊附録詳解』（自筆、中曽根慎吾蔵）というのがある。

【やぶにらみ随筆】

和算史料の紛失？

かつて、昭和三十二年代、A短大数学研究室のB先生は『和算史調査資料』を発行していて、その第一号（昭和三十三年八月）の中で、「内田往延氏蔵書寄贈目録」なるものを発表しています。その内容は、「昭和三十三年七月二十九日、埼玉県和算家内田五郎往延氏の事跡を調査した際に、往延氏の後裔根岸文助氏より本学に左記の和算書を寄贈下さる。紙上をもって謝意を表する。」というもので、計二十五冊の和算書（刊本、写本）の名前が記されています（注）。内田往延は勿論、嵐山町の「内田祐五郎往延」（二八四三〜一九二二）のことです。

これらは貴重な史料なので、見られるものなら見たいと思ひ、当該大学の図書館に問い合わせてみました。その回答は次のようなものでした。

「お問い合わせの件、確認致しましたが、結論から申し上げますと、閲覧が不可能です。本学は過去に二度大規模な敷地移転と学舎の建て替えを行っており、その都度図書館資

料も移動させているのですが、この時、件の和算関係資料を含む一部の資料が所在不明になつており、現在に至るも発見されておりません。古い時代の話でもあり、当時の事情を知る職員も残っていないので確認のしようがなく、実質的に除籍図書として扱われていきます。

ご期待を裏切ることになり誠に申し訳ありませんが、何卒ご容赦下さいますようお願い申し上げます。」

予想だにしなかった返信に驚きました。寄贈者は「大学」を信頼して寄贈したと思うし、大学側は学問探究の立場から、当然このような史料の扱いには慎重であるべきであつたと思ひます。

A短大出版部からは沢山の有意な数学史の本が出版されているだけに、このような事態は残念なことの上ないことです。

その後、「大事な資料なので必ずどこかに存在すると思ひます。継続して探して頂きたいと願うものです。」とのお願ひ（メール）をしましたが、何も連絡がありません。

若者の人口が減少し、今後大学は「冬の時代」になると言われていますが、大学改革（あるいは淘汰・縮小）の中で様々な貴重な資料を無くしてはならないと思ひます。

（注）寄贈書の中に、「點竄術二個」（写本）というのがあり、幸いこの内容は同誌に掲載されています（手書き写し）。「點竄術二個」は内田往延が東松山市の岩殿觀音へ奉納した算額の類題を、比企郡広野村字川嶋（嵐山町川島）鬼神社へ奉納したらしい算額の解答控書といわれるもの。この原図が見たかった！。

編集後記

「やまぶき」2号をお届けします。熊谷の和算家の事績は、昨年のことを思い出して書きました。野口先生にお礼申し上げます。

二月八日大雪になり、それが解けないうちの一日にまた大雪になりました。二回目は水分を多く含む重たい雪でした。生涯で初めて経験するような大雪は、車の上での積雪は六十cmを越えていました。近所ではガレージが潰れたりした被害が出ていますが、深刻なのは閉ざされた山間地帯の人達の生活です。それに、野菜やビニールハウスなどの被害です。

昨年夏には信じられない集中豪雨で被害が出ました。大雪や集中豪雨など今まで経験したことがない自然災害が顕著になってきたのは単なる偶然なのか、何かの予兆なのか。自然が何かに怒っているかのようにですが、穏やかな世界になって欲しいと思ひます。